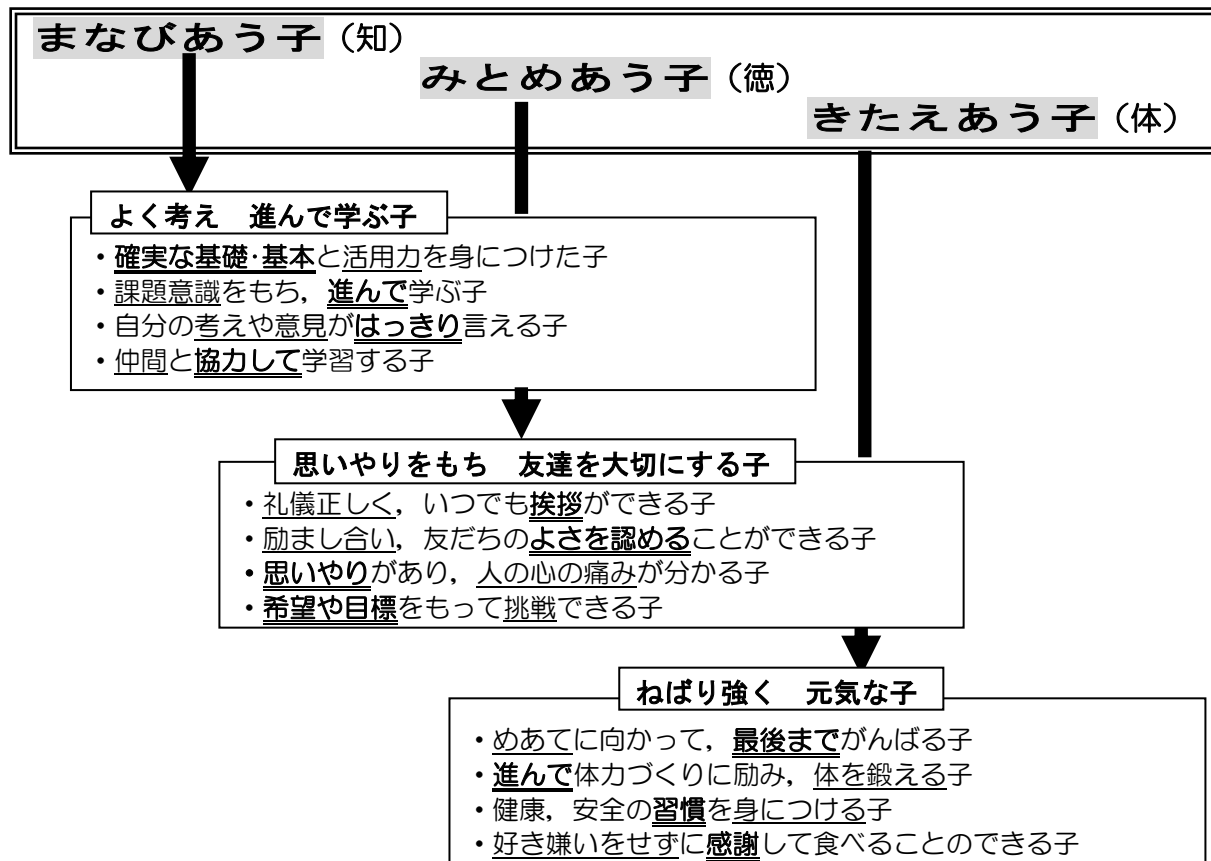


# 平成 29 年度 学校経営方針

比布町立中央小学校

「学校目標の確かな具現化と子ども達の最高の笑顔を求めて」

## I 学校教育目標



## II 学校経営の基本方針

### 1 今年度の学校経営の基本的な考え

#### (1) 「まなびあう子 みとめあう子 きたえあう子」の確かな具現化について

どの子どもっているはずの『なりたい自分』に気づかせ、それに向かって日常生活や学習ができる子の育成を本校の学校経営の土台とする。この力を原動力に「豊かな心」「確かな学力」「たくましい体と心」を備えた「未来の自分に希望(夢)をもつ子」に変容させることが、教育目標を具現化すること。

更に、確かな具体化をめざすために、上記二重下線を「最重要ワード」、一重下線を「重要ワード」と捉え、児童理解や評価の視点・観点とする。

以上のことを踏まえ、本校の教育活動の「意図や価値」を組織的かつ個人的に今一度見直し、子ども達の心に届く指導に心がける。更に、子ども達に経験や体験を数多く与え、『鍛える』という観点で充実した学校生活の実現に全力で教育実践に取り組む。加えて、教職員の機能体としての体制づくり、子どもに寄り添った研修に力を入れ、目標(めあて・ねらい)を明確した授業づくりを基本とする。更に、保護者・地域の方と子育てのためのタッグを組み、開かれた学校づくりと関係諸機関との連携づくりをめざす。

#### (2) 「最高の笑顔」について

「笑顔」をキーワードとし、本校の合い言葉「笑顔満開」を求め『最高の笑顔』をめざす。求めるのは、表情としての「笑顔」だけではなく内面(充実感・満足感・成就感などのプラス感情。我慢・悩み・苦しみなどのマイナス感情など)を含んだ「笑顔」とする。

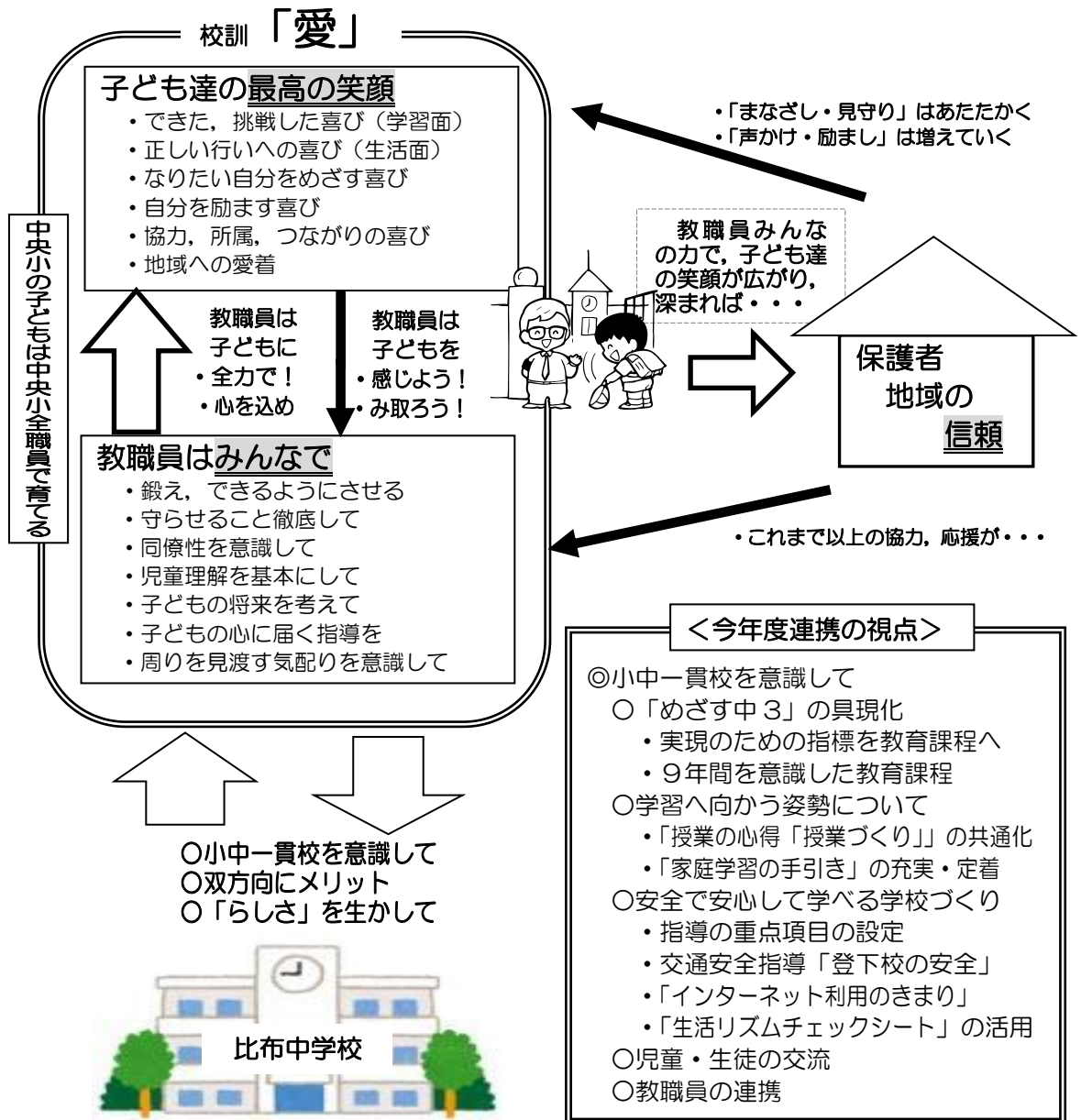
これらの「笑顔」を支えるのは「当たり前なことを当たり前にできる子」「どこに出しても恥ずかしくない子」という子どもの姿である。

子ども達に『最高の笑顔』を提供するためには、上記の具現化に向けた教育活動の充実が基本である。更に、これまで以上の児童理解や子ども達の心に寄り添った指導が不可欠である。加えて、子ども達にも自分を「振り返る力」や「見つめる力」などの自己分析能力が不可欠と考える。

(3) 学校経営のイメージ

子どもの最高の笑顔があふれる楽しい学校

～児童・教職員・保護者・地域にとって楽しいと実感できる学校～



2 子どもの笑顔があふれる楽しい学校にするために

＜こんな学校をめざします！＞

- 【1】子どもたちが毎日元気に登校し、元気に下校できる学校
- 【2】明るく元気なあいさつがあふれている学校
- 【3】お互いに信頼し合い、助け合える学校
- 【4】学ぶことが楽しい、分かる授業が展開されている学校
- 【5】音楽や歌声が響き、温かい雰囲気がある学校
- 【6】みんなが落ち着いて学習できるきれいな学校
- 【7】子どもにとって友達と教師と関わるのが楽しい学校
- 【8】子どもも教師も自分のよさを発揮できる学校
- 【9】子どもたちの安心・安全が確保されている学校
- 【10】保護者・地域の方々の願いに応え、愛される学校

### <こんな教師をめざします！>

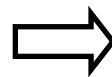
- ①「子どものために」を信条に、常に児童理解に心がけ、教師としての情熱をもち、初心を忘れず意欲的に教育活動に取り組む教師
- ②「授業で子どもをよりよくかえる」という信念をもち、ねらいを明確した授業作りに心がけ、教材研究に励み、授業の在り方を研究し、進んで公開授業、授業参観を行い、授業力を高める教師
- ③教育者として生涯学習者であることの自覚をもち、あらゆる機会をとらえて自己研鑽し、その成果を教育活動に生かそうとする教師
- ④教職員相互が積極的にコミュニケーションを図り、改善すべきことは前向きに実行する教師
- ⑤保護者の願いを受け止め、保護者と心の交流をする教師

## 3 今年度の重点

- ①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る授業の工夫・改善及び、全校体制で取り組む読書活動、読み、書き、計算の能力の向上
- ②コミュニケーション能力の向上を目的とした表現活動の充実と、いつでも・だれにでも・どこでも笑顔であいさつができる学校の創造
- ③子どもの理解に努め、よさを引き出し、認め・励まし、粘り強くやり遂げる子どもと、相手の立場や考えを大切にする思いやりのある子どもの育成
- ④いつでも大きな歌声が響き、子ども達の心が一つになる感動を共有できる学校の創造
- ⑤清掃美化や壁面装飾など細やかな心遣い、潤いと落ち着きのある上質な教育環境の整備
- ⑥遊びの奨励、積極的に運動に親しむ態度を育み、体力向上を図る取組強化
- ⑦地域とともにある学校をつくるため、学校・家庭・地域との一層の連携強化と、相互の教育力

## 4 着実な実践・実績・成果のために

### (1) 子ども達の姿の最終形



「子ども達の将来を見つめて」

「なりたい自分」を原動力に『自分で伸びる子』を育てること。

私たちが願っているのは、どんな状況にあっても、失敗をくり返しながらか、自ら課題を見つけ、自ら解決できる子どもたちを育てること。そのために前向きに挑戦する(心)と基礎基本に基づいた(知)、それらを収納するじょうぶな(体)の育成が急務である。

つまり「バランスよい育ち」ということ。

～車にたとえるなら、しっかりしたボディ(体)、正確なハンドル(知)、スピードを調節するアクセルとブレーキ(心)がなければ、安全で予定通りに、目的地に到着しない。～

そのためには、子どもたちが本来もっているはずの願いを大切にして、「目標」や「なりたい自分」を明確にさせ、計画的に継続させ、自ら学ぶ姿勢を身につけさせること。

### (2) 中央小学校スタンダードの確立



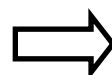
「子ども達の足元を見つめて」

○義務・公教育の意味を噛みしめて流行に関係なく、私達がやらなければならないこと

①「当たり前のことを当たり前にできる子を育てること」

②「どこに出しても恥ずかしくない子を育てること」

### (3) 確立のための視点



「子ども達の全教育活動を見つめて」

①<教師は>特別支援教育の視点を意識した児童理解の充実をさせる

②<子どもに教師が>授業や行事や取組の目標やねらいを明確にさせる  
(キャリア教育の視点をもち「将来」を意識させる)

③<子どもを教師が>鍛えて変容させる指導の徹底を図る

④<子どもに教師が>実感(見える・感じる)できる確かな変容を示す

⑤<教師は>確かな根拠(見える・形あるもの)に基づいて評価する

# 学校経営の全体構造図

